

情報連絡員総括表（2022 年 1 月）

－ 静岡県中小企業団体中央会 －

本書は、静岡県中小企業団体中央会が委嘱した情報連絡員〔協同組合等の役職員 60 名〕による毎月の景況調査の集計結果です。

1. 概況報告
2. 項目別の前月・今月の DI 値の比較
3. 情報連絡員からの報告
4. 中央会・行政への要望
5. 主要三指標における DI 値の推移（グラフ）

・ 本調査の見方 ・

◎売上高等の 9 項目につき 前年同月と比較し、好転・不変・悪化 のいずれかを回答

DI 値＝〔(好転組合数－悪化組合数)／調査対象組合数〕×100

※全項目が前年同月比「不変」となった場合は、DI 値は基準値 ±0.0(＝横ばい)で推移

※「在庫数量」のみ、プラス値が高いほどマイナス要因と定義

1. 概況報告（回答者数 60 名：回収率 100.0%）

○2022 年 1 月の DI 値は、前月との比較において「在庫数量」を除く 8 指標が悪化する結果となった。

12 月期調査ではすべての指標が上昇傾向にあったが、コロナウイルスの新株流行による感染拡大に伴い、大きく落ち込みを見せる結果となった。各業種からも当月の落ち込みと感染拡大による消費の減少による厳しい状況についての声が多く寄せられた。

○「製造業」では、前月との比較において、「在庫数量」「資金繰り」以外の 7 指標が悪化する結果となった。

織物業からは、「コロナウイルス感染症がこの 1 月より蔓延し、少しずつ戻りつつあった売上に、水を差すような結果になりそうだ」とのコメントが寄せられた。

○「非製造業」では、前月との比較において、9 指標すべてが悪化する結果となった。鮮魚小売業からは、「まん延防止に伴う営業時間の短縮と酒類提供の停止で再び業務卸売業は厳しい状況になることが予想される。また、原材料等の上昇により小売業も含め、全体的に消費がしぼむ事が懸念される」との声が寄せられた。

	売上高	在庫数量	販売価格	取引条件	収益状況	資金繰り	設備操業度	雇用人員	業界の景況
2022年1月	-18.3	-11.4	11.6	-15.0	-41.7	-28.3	-16.6	-16.7	-40.0
2021年12月	11.7	-11.4	16.7	-10.0	-10.0	-15.0	3.3	-8.3	-18.4
増減	-30.0	0.0	-5.1	-5.0	-31.7	-13.3	-19.9	-8.4	-21.6

2. 項目別の前月・今月のDI値の比較

		製造業			非製造業			全体		
		DI値	増減		DI値	増減		DI値	増減	
売上高	2022年1月	-23.3	-26.6 ポイント	↘	-13.3	-33.3 ポイント	↘	-18.3	-30.0 ポイント	↘
	2021年12月	3.3			20.0			11.7		
在庫数量	2022年1月	-6.6	-3.3 ポイント	↑	-21.5	7.1 ポイント	↘	-11.4	0.0 ポイント	—
	2021年12月	-3.3			-28.6			-11.4		
販売価格	2022年1月	10.0	0.0 ポイント	—	13.3	-10.0 ポイント	↘	11.6	-5.1 ポイント	↘
	2021年12月	10.0			23.3			16.7		
取引条件	2022年1月	-10.0	-6.7 ポイント	↘	-20.0	-3.3 ポイント	↘	-15.0	-5.0 ポイント	↘
	2021年12月	-3.3			-16.7			-10.0		
収益状況	2022年1月	-43.3	-23.3 ポイント	↘	-40.0	-40.0 ポイント	↘	-41.7	-31.7 ポイント	↘
	2021年12月	-20.0			0.0			-10.0		
資金繰り	2022年1月	-23.3	3.3 ポイント	↑	-33.4	-30.0 ポイント	↘	-28.3	-13.3 ポイント	↘
	2021年12月	-26.6			-3.4			-15.0		
設備操業度	2022年1月	-16.6	-19.9 ポイント	↘				-16.6	-19.9 ポイント	↘
	2021年12月	3.3						3.3		
雇用人員	2022年1月	-26.7	-13.4 ポイント	↘	-6.6	-3.3 ポイント	↘	-16.7	-8.4 ポイント	↘
	2021年12月	-13.3			-3.3			-8.3		
業界の景況	2022年1月	-33.4	-13.4 ポイント	↘	-46.6	-30.0 ポイント	↘	-40.0	-21.6 ポイント	↘
	2021年12月	-20.0			-16.6			-18.4		

今月の業種別回答件数

1) 業界の経営動向

静岡県中小企業団体中央会

		売上高		在庫数量		販売価格		取引条件		収益状況		資金繰り		設備操業度		雇用人員		業界の景況	
		増加	減少	増加	減少	上昇	悪化	好転	悪化	好転	悪化	好転	悪化	上昇	悪化	増加	減少	好転	悪化
製造業	食料品	0	1	0	2	1	0	0	1	0	3	0	1	0	1	0	1	0	3
	繊維工業	0	2	0	1	0	0	0	0	0	2	0	2	0	2	0	1	0	2
	木材・木製品	1	2	0	2	3	0	1	1	1	2	0	0	1	1	0	0	1	1
	紙・紙加工品	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	印刷	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0
	窯業・土石製品	1	2	1	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	1	0	2	0	2
	鉄鋼・金属工業	1	1	0	0	0	0	0	1	1	2	0	1	2	1	0	1	1	2
	一般機器	1	0	1	0	0	0	0	0	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0
	電気機器	0	1	0	1	0	0	0	0	0	1	0	1	0	1	0	1	0	1
	輸送用機器	2	3	3	1	0	1	0	1	2	3	0	1	2	2	0	2	2	3
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
非製造業	卸売業	1	1	1	0	0	0	0	0	0	2	0	0			0	0	0	2
	小売業	0	4	0	2	3	1	0	3	0	5	0	4			0	1	0	5
	商店街	1	1	0	2	1	1	0	1	0	1	0	1			0	1	0	2
	サービス業	2	1			0	1	0	0	2	1	0	1			1	0	1	2
	建設業	1	1			2	0	1	2	1	3	1	2			1	1	1	2
	運輸業	1	2			1	0	0	1	0	3	0	3			0	1	0	3

3.情報連絡員からの報告

製造業

水産食料品	・正月までは観光地への人出も多くなり、水産物の需要も高まっていたが、その後、コロナ禍の波が押し寄せると一気に需要減退となった。ただし、巣ごもり需要の高まりも一部にある。 ・新型コロナの影響で約2年間我慢比べをし、生産調整や業務リストラなど経営努力を重ねて何とかやりくりしてきたが、ここにきて新株の影響により再び「まん防」が適用され、さながら水面に出て呼吸をしようとした時に足を引かれ水中に引きずり込まれた様な気持ちである。
パン	・2018年頃からふわふわで甘い「高級食パン」は、おいしさは当日のみで翌日には味が落ち、また焼くと美味しくない為、ブームは去りつつあり全国で閉店する店が増加する傾向にある。
織物業	・原材料並びに生産コストの上昇による収益の悪化。 ・コロナウイルス感染症がこの1月より蔓延し、少しずつ戻りつつあった売上に、水を差すような結果になりそうだ。
宗教用具	・依然として需要は低迷しており前年比△32%減と厳しい状況が続いている。
製材業、木製品	・依然木材需要は旺盛であり製材業界は高操業が続いているが、原材料費も高騰しており採算面は微妙。ここにきて市況に警戒感が聞こえてきた。
金属製品	・自動車業界の操業短縮により、受注量が不安定 ・各業界の景気が軒並み悪化している。 ・新型コロナの影響が不安材料である。
生産用機械器具	・原材料・光熱費の高騰により収益が圧迫されている。 ・部材の遅延による仕掛の増加と材料費の値上げによる収益面への影響が出てきている。 ・1月に入って、オミクロン株感染拡大により、複数の組合員で陽性者が出ており、今後の生産活動への影響が危惧される。
電気機械器具	・部品調達問題は改善されつつあり、生産は回復傾向となっているが、足元では人の確保が問題。
輸送用機械器具	・自動車関連の組合員企業は、売り上げがコロナ前の水準に回復してきているが、第6波の感染状況により生産動向が大きく下振れする可能性がある。 ・1月に入ってからオミクロン株の感染拡大により部品調達の遅れが出ており、OEMメーカーの稼働停止や生産計画の変更が頻発している。自社内の感染拡大にも気を使いながら、生産調整による人員調整に苦慮している。 ・1月9日以降オミクロン株感染事例が拡大してゆく中で、自動車メーカーの操業停止の影響は業界に影響を与えている。企業は、感染者対応と生産予定の変更など経営が困難な状況である。今後コロナウィルスの変異はさらに続くことも予想され予断を許さない状況である。 ・自動車関連業界では、新型コロナ感染拡大及び半導体不足、ハーネス部品輸入遅れの影響によりカーメーカーの生産調整が発生し減収減益である。2月期に於いても生産調整の影響が大きく響くと予想される。

非製造業

セメント卸売業	・公共関連工事や大口工事案件等の需要低迷により、2ヶ月振りに前年実績マイナスとなった。
各種商品卸売業	・コロナ禍の中でも、企業から新たな投資相談がある。
鮮魚小売業	・まん延防止に伴う営業時間の短縮と酒類提供の停止で再び業務卸売業は厳しい状況になることが予想される。また、原材料等の上昇により小売業も含め、全体的に消費がしばむ事が懸念される。
燃料小売業	・政府はコロナ下における燃料価格激変緩和対策事業を発動した。これは国が、元売り事業者・輸入業者に価格抑制の原資を支給し、ガソリン・軽油・灯油・重油の卸価格の抑制を通じて、小売価格の急激な上昇を抑制するもの。小売価格を引き下げて販売することではないが、一部の誤った報道等により、消費者はガソリンを値下げしない末端の販売業者が補助金を搾取していると勘違いされるケースが見受けられる。原油価格は、中東情勢やウクライナ情勢等不安定な要素があり、今後も高止まりすることが予想される。激変緩和策の主旨は売価を引き下げるのではなく、これ以上値上げしないで済むためのもので、原油動向などで一定の補助額を上回った場合、値上げもありえる。
各種商品小売業	・三が日は、去年より人出も多く、飲食店も個人客が戻りつつあった。しかしながらオミクロン株の急激な拡大で、客足が遠のいた。1月29日から、静岡市主催の地域消費促進キャンペーンが始まった。なんとか蔓延防止等重点措置期間の売り上げに期待する。
宿泊業	・1月期においては年末年始を中心に宿泊予約が伸び、対前年同月比については売上・収益とも増加した。しかし、1月27日からの静岡県のまん延防止等重点措置の適用により、その後の宿泊キャンセルや新規の宿泊予約が止まった。
職別工事業	・昨年同時期に比べ、コロナの影響が薄くなっており、着工が遅れる工事は散見されるものの、全体的には忙しくなる兆しが見えている。但し、鋼材単価の上昇などにより元請からの値下げ圧力は大きい。
道路貨物運送業	・1月の荷物情報は回復傾向で始まったものの、まん延防止措置の発令により法人向けの集荷が減少。相変わらずの燃料高騰やアドブルーの供給不安により長距離輸送を避ける傾向が続く。また、一部では新型コロナウイルスのオミクロン株急拡大により、ドライバーへの感染や濃厚接触者も広がりを見せ、運転手確保が厳しくなることが懸念である。
道路貨物運送業	・燃料費の高騰や取引先の急な稼働日減により減収と固定費の増加に繋がっている。加えて、半導体など影響を受けない自動車関連以外の運送をしている会社に転職を考える運転手もいる。自動車関連はバックオーバーが多く将来、挽回予定との説明が報道などであるが、その時には運転手・ドライバー不足になっている可能性がある。
道路旅客運送業	・再びまん延防止重点措置が発令され、戻り始めた人の動きが止まってしまい、無事に新年度を迎えられるかを心配する声も聞かれる状況に陥っている。

4. 中央会・行政への要望

各種商品卸売業

- ・円安に加え、更なる原油高の状況は変わらず、輸入企業、原材料仕入れを伴う製造業全般に対する支援を検討いただきたい。

商店街

- ・バランスの取れた政策をとってもらいたいです。経済は、簡単には取り戻せません。素早い経済対応をお願い致します。

運輸業

- ・コロナ対策として3年前から金融機関等から多額の融資を受けていますが、厳しい経営環境下で利子返済期限が間近に迫っています。多くの問題を抱えており、あらゆる方面からの支援が必要です。市民の生活を支える輸送サービスの確保に向け、早急に対策いただきますようお願いいたします。

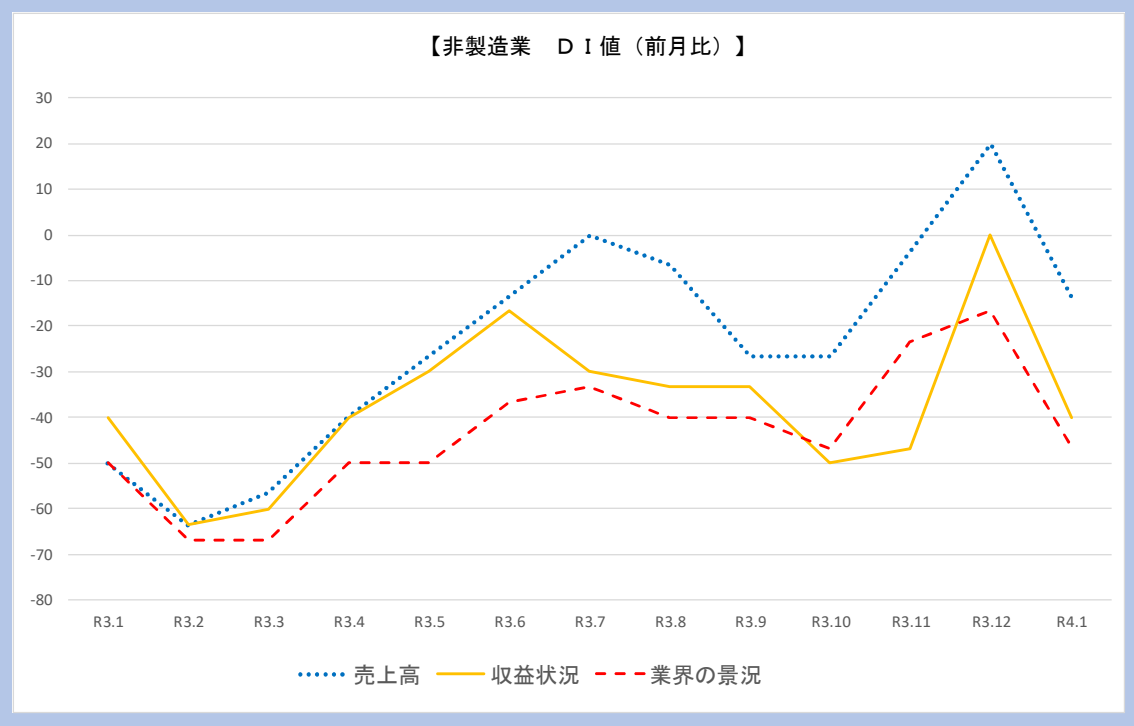
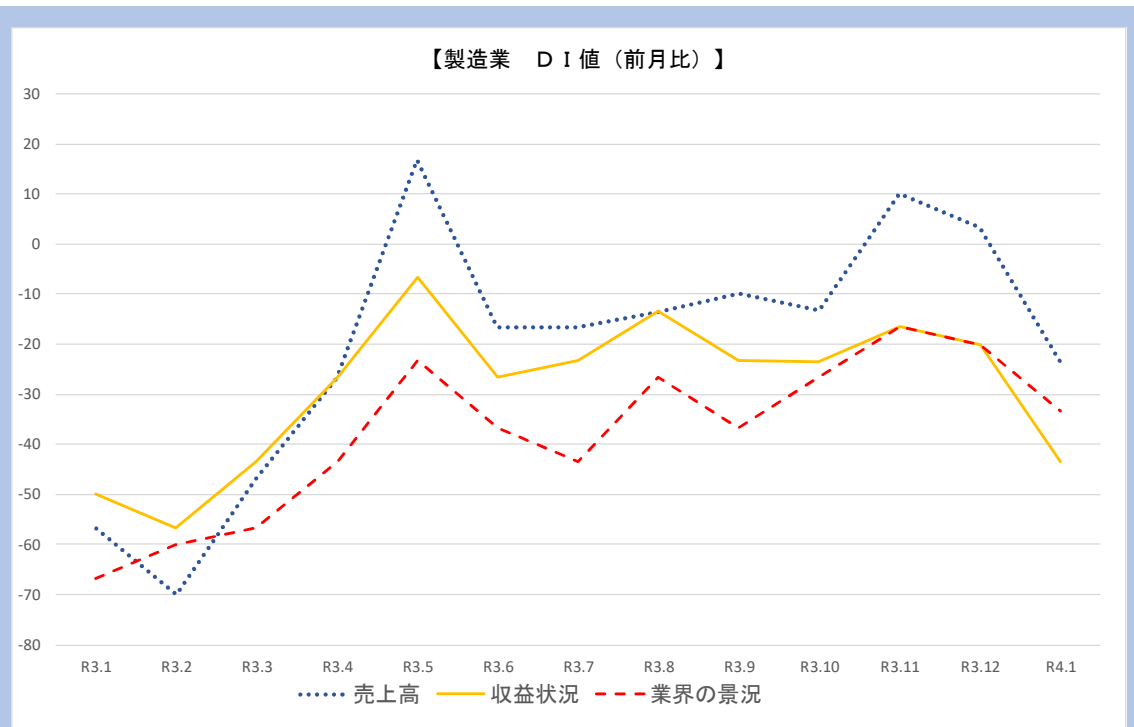
5. 主要三指標における DI 値の推移

■ 2021年1月期～2022年1月期までの推移

全体	R3.1	R3.2	R3.3	R3.4	R3.5	R3.6	R3.7	R3.8	R3.9	R3.10	R3.11	R3.12	R4.1
売上高	-66.7	-51.6	-33.3	-5.00	-13.3	-8.4	-10	-18.4	-20	-8.6	5.0	11.7	-18.3
収益状況	-60.0	-51.6	-33.3	-18.3	-20.0	-26.6	-23.4	-28.3	-36.7	-29.4	-31.7	-10.0	-41.7
業界の景況	-63.4	-61.6	-46.7	-36.6	-35.0	-38.3	-33.3	-38.3	-36.6	-34.5	-23.4	-18.4	-40.0

製造業	R3.1	R3.2	R3.3	R3.4	R3.5	R3.6	R3.7	R3.8	R3.9	R3.10	R3.11	R3.12	R4.1
売上高	-56.7	-70	-46.6	-26.6	16.7	-16.6	-16.7	-13.4	-10	-13.3	10.0	3.3	-23.3
収益状況	-50	-56.6	-43.3	-26.7	-6.7	-26.7	-23.3	-13.3	-23.3	-23.4	-16.6	-20.0	-43.3
業界の景況	-66.6	-60	-56.7	-43.3	-23.3	-36.6	-43.4	-26.7	-36.6	-26.7	-16.6	-20.0	-33.4

非製造業	R3.1	R3.2	R3.3	R3.4	R3.5	R3.6	R3.7	R3.8	R3.9	R3.10	R3.11	R3.12	R4.1
売上高	-50	-63.4	-56.6	-40	-26.7	-13.3	0	-6.7	-26.7	-26.7	-3.4	20.0	-13.3
収益状況	-40	-63.4	-60	-40	-30	-16.7	-30	-33.3	-33.3	-50	-46.7	0.0	-40.0
業界の景況	-50	-66.7	-66.7	-50	-50	-36.6	-33.3	-40	-40	-46.7	-23.4	-16.6	-46.6



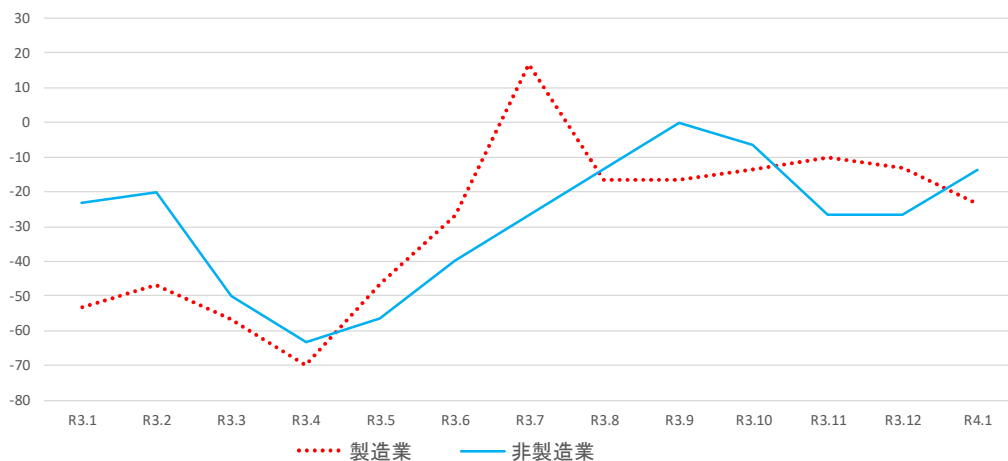
■2021年1月期～2022年1月期までの推移

売上高	R3.1	R3.2	R3.3	R3.4	R3.5	R3.6	R3.7	R3.8	R3.9	R3.10	R3.11	R3.12	R4.1
製造業	-53.4	-46.7	-56.7	-70	-46.6	-26.6	16.7	-16.6	-16.7	-13.4	-10	-13.3	-23.3
非製造業	-23.3	-20	-50	-63.4	-56.6	-40	-26.7	-13.3	0	-6.7	-26.7	-26.7	-13.8

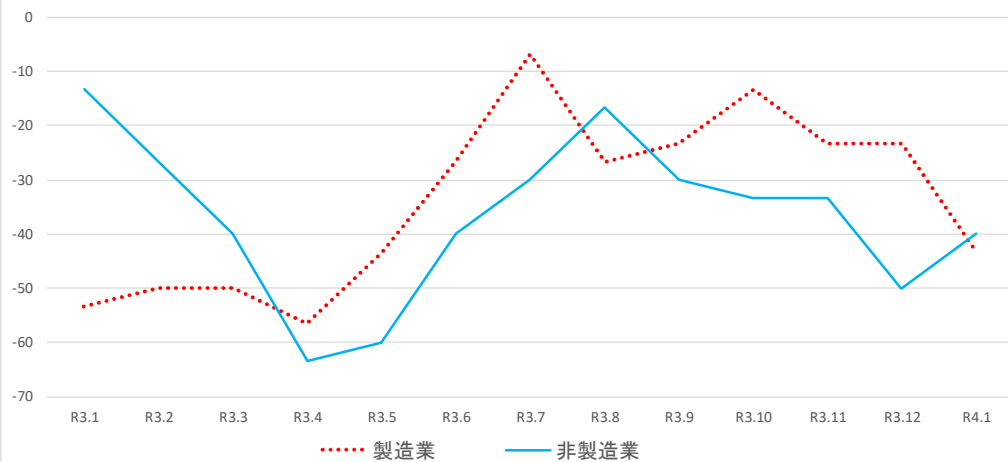
収益状況	R3.1	R3.2	R3.3	R3.4	R3.5	R3.6	R3.7	R3.8	R3.9	R3.10	R3.11	R3.12	R4.1
製造業	-53.4	-50	-50	-56.6	-43.3	-26.7	-6.7	-26.7	-23.3	-13.3	-23.3	-23.4	-43.3
非製造業	-13.3	-26.7	-40	-63.4	-60	-40	-30	-16.7	-30	-33.3	-33.3	-50	-40.0

業界の景況	R3.1	R3.2	R3.3	R3.4	R3.5	R3.6	R3.7	R3.8	R3.9	R3.10	R3.11	R3.12	R4.1
製造業	-56.7	-63.3	-66.6	-60	-56.7	-43.3	-23.3	-36.6	-43.4	-26.7	-36.6	-26.7	-33.4
非製造業	-33.4	-36.6	-50	-66.7	-66.7	-50	-50	-36.6	-33.3	-40	-40	-46.7	-44.8

【売上高／製造業と非製造業の比較 D I 値（前月比）】



【収益状況／製造業と非製造業の比較 D I 値（前月比）】



【業界の景況／製造業と非製造業の比較 D I 値（前月比）】

